

府中市議会 第20回議会改革特別委員会会議録

令和元年 8 月 19 日 午後 1 時 3 分、議会改革特別委員会を第二委員会室において開会した。

1 出席委員

委 員 長	三 藤 毅	副 委 員 長	本 谷 宏 行
委 員	加 納 孝 彦	委 員	安 友 正 章
委 員	土 井 基 司	委 員	加 島 広 宣
委 員	岡 田 隆 行		
副 議 長	大 本 千 香 子		

1 欠席委員

なし

1 説明のため出席した者

なし

1 事務局及び書記

事 務 局 長 赤 利 充 彦 議 事 係 長 小 林 正 樹

1 本日の会議に付した事件

(1) 議員定数について

(2) その他

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

午後 1 時 0 分 開会

○委員長（三藤毅君） ただいまから、議会改革特別委員会を開会いたします。

これより議事に入ります。本日の議題は、お手元に配布のレジュメに沿って進めさせていただきます。まず、議員定数についてであります。前回の議論の中で19人ということで、各会派において再度検討をしていただくようお願いしたところではありますが、検討結果について、御報告をお願いいたします。

まず、創生会からお願いします。

○委員（本谷宏行君） 創生会としては19名という結論で変更はございません。

○委員長（三藤毅君） 続いて、市民クラブの報告をお願いします。

○委員（土井基司君） 市民クラブとしては、委員会で議論された19名は受け入れるという結論になりました。ただし、前回の会議でも出ましたが、できるだけ少数意見が議会の議論に反映されるように、今まで以上に、市民や地域の声を聞くという取り組みを進めるという条件で賛成するという結論となりました。

○委員長（三藤毅君） 続いて、公明党の報告をお願いします。

○委員（加島広宣君） 公明党は、前回と変わらず16名でございます。今回19名というこ

とで、持ち帰って検討をするようにという話があったんですが、19名に対する根拠が明確でないと感じているところです。なぜ19名なのか、もう少し理解できるような説明を願いたいと思います。

○委員長（三藤毅君） 続いて、日本共産党の報告をお願いします。

○委員（岡田隆行君） 日本共産党といたしましては、19名で賛成することを決定しました。ただ、人口が減少しても議会の役割が減るわけではない。しかしながら人口が減少していくのは目に見えてはっきりしていて税収も減っていくわけですので、それに対応しなければいけない面があります。あわせて、先般から言っております、人口3万人から4万人の平均が3万4,580人で、定数が18.7名ということもあります。創生会から言われた3委員会を構成するとした場合、6名掛ける3の18名で、プラス議長で19名ということで話し合いました。

○委員長（三藤毅君） ただいまの報告から議員定数の結果を取りまとめますと、創生会が19名、市民クラブ19名、公明党16名、日本共産党19名であります。公明党においては16名ということで一致とならなかったわけですが、協議の内容について詳細に説明をお願いします。

○委員（加島広宣君） 当初から公明党としては、16名と提示させていただいております。それは、今後の人口減少を加味している部分もありますが、この人口減対策という意味ではなくて、定数というものが選挙において政争の具として使われやすいという部分もありまして、そうした中で定数においては削減ということが叫ばれていますので、今回議長からの諮問もありますので、1名減の19名ですと、市民に対し説明ができるものなのか、16名となると思い切って4名減るわけですが、今後、人口が減っていくことにも対応していけるだけの数字であり、また、そうした16名という人数ではありますが、少数精鋭ではありませんが、やっていけるという判断です。

○委員長（三藤毅君） 人口減の先取りということでしょうか。

○委員（加島広宣君） 人口減の先取りではありませんが、そうした傾向も考える必要があるということです。

○委員長（三藤毅君） 公明党のほうから政争の具になりやすいとか、人口減もあり19名では市民に説明できないのではないかという内容を報告していただきましたが、この内容に対して御意見、御質問はありませんか。

○委員（岡田隆行君） 先ほども少しありましたけれども、定数を減らしていくことは非常に慎重にならなくてはならないと思います。ただ、その時の指標になるのは何かということですが、平均値を見ることも一つは必要であろうと、全国平均が人口3万人から4万人であつたら平均人口が3万4,580人で、定数が18.7人と全国市議会議長会の資料

として出ています。もし5万人未満であれば定数17.9名と、約18名ということになっている。実際問題は、人口3万人から4万人の規模に入っているの、そうすると平均人口3万4,580人だと定数18.7名、これが一つの参考になるであろうと思います。あわせて、この近辺で一番定数が減ってきているのは竹原市であり、問い合わせしてみたところ定数は14名で、14名を下回ると機能が維持できなくなると言われました。今2委員会、人口は2万5,000人という状態です。住民の声がしっかり反映できて、審議できて、提案がしっかりできるような形であるためには、定数は6名掛ける3委員会プラス議長の19名が妥当だろうと思います。

○委員（本谷宏行君）　今回16名を提案されているわけですが、この特別委員会では府中市議会、いかに議論していくか、いかにチェックしていくかを考えたときに、現状の3委員会からは減らせないという結論になったと思います。そういった意味で、3委員会を維持しながら定数16名とすると、どういう委員数とお考えでしょうか。

○委員（加島広宣君）　3委員会を維持するということになれば16名なので、5名の3委員会となると思います。

○委員（本谷宏行君）　そうすると、委員長を除くと4名となります。なぜ3委員会が必要かという議論の際に、一番の理由として執行部の事務量も増加していて、それをチェックする量も増加しているということもあって、各委員会でしっかりとした議論やチェックが必要ではないかということであったわけですから、果たして4名で、しっかりとした議論やチェックができるのかという点について、お聞かせ願います。

○委員（加島広宣君）　4名で委員会ができるのかということですが、やっていないのでなんとも言えませんが、定数は府中市議会として決定できるということですので、16名でできなければふやすというのもありだと思います。市民の声を反映して定数を減らしてやってみて、市民の方から定数を減らしすぎて困るという声があがるようであれば、その時に増やすことも可能であると思います。

○委員（本谷宏行君）　創生会は13名いるのでいろんな意見がありまして、その中でも定数に関しては18名から現状維持という意見があった中で、今回のように19名で調整させていただいたという経過がありますが、18名という意見の要因の中には、各委員会の中でしっかりと議論していくということ、人口減少が著しい周辺地域の声をどのように吸い上げるかという議論の中で、19名と調整させていただいた。そういう意味では、確かにやってみないとわからないというのは理解できますが、現在取り組んでいる委員会の内容を、4人で行うのはとても難しいのではないかと。それだけの仕事量はあると思いますし、そういった中で多様な意見を出していくという――これから議会改革の中でやっていこうとしているわけで、今までの委員会よりもっと充実させていかなければなら

ないという議論も行ってきたわけですから、そこを充実させることが市民の皆さんの利益に繋がる、こういうことから考えると定数16名は逆行するのではないかと思います。もう一つは、有識者の方々の意見を参考にすれば、少数の意見をどのように吸い上げていくのかというのが、市民の皆さんに伝わっていない、理解していただいていないということもあると思うので、そこはしっかりこの委員会でやっていくということの中で、取り組んでいくわけですから、しっかりとした人数は必要であるので、委員会が4名というのは難しいのではないかと思います。

○委員（加島広宣君） やってみたいとわからないというのは正直な気持ちでもあります。いずれにしても、議長の諮問により議会改革をしていくんだという思いで、皆さんが集まられています。今回の改革で1名減らすことになりましたということで、市民の納得を得ることが可能なかという思いもありますし、ぎりぎりのところまで減らした人数で検討したところです。今まで減らしてきた経過では2名ずつ減ってきていたわけですが、今回は4名減ということです。

○委員（本谷宏行君） お聞きしたいのは、4名でどのように委員会を運営していくのかということ——これから委員間討議も含めて、委員会で積極的に取り組んでいこうという中で、4名で運営していくというのがなかなかイメージできないので、とても無理ではないかと思いますが、それでも大丈夫と言われるのは、どういうことでできると言われるのかお聞きしたい。

○委員（加島広宣君） やっていないので大丈夫という思いでもないのですが、この人数であれば確かに4名で行うしかないんですが、4名で厳しいということになれば、3委員会を2委員会にという形にして頑張るしかないという思いでいます。

○委員（加納孝彦君） やってみたいとわからないというところで聞いてみたいのですが、仮定の話ですが、改選により16名になって、1年間やってみて、だめということになったら、残りの任期をどうするのか。それこそ市民に対してだめでしたでは、危険なのではないでしょうか。委員会の数としては、仕事量から3委員会が必要であると決定していると思っていますので、3委員会でやるけど、だめだったら2委員会でやるというのは根拠としては成り立たない気がします。市民への説明は定員減なのか、この人数だったらかちんと市民の付託に応えられるのかという人数を決めているわけなので、さらに、なり手不足解消を進める上では、活動をもっとやりましょうということなので、現在の人数でも一人当たりの仕事量は増えていくことになると思うんです。その部分をやってみたいとわからないというのは、議員の責任はどうなるのか、その程度の思いでやっていいのかという思いはあります。

○委員（加島広宣君） 加納委員が言われるように、確かに16名で行うとなれば一人の仕

事量も大変ふえてくるだろうと、普通に考えればわかることですが、16人になってでも仕事をこなしていけるという思いではいます。もし、それで足りないということであれば、4年に一度選挙があるので、市民の方が判断されるのかなと思います。

○委員（加納孝彦君） 市民の方が判断されるというのは、次の選挙のときにふやせという声を出されるということでしょうか。

○委員（加島広宣君） 16名で少数精鋭の人数で活動していく、そうした中で、できるという判断ではありますが、その中で活動ができていて、できていないという判断は、4年に一回の選挙で判断されるわけですが、16名で回らないかどうかについては、やっていないのでわからない部分はあるのですが、できるという思いの中での最低の人数を提示したものです。

○委員（土井基司君） 公明党さんは16名ということなんですが、アンケートの結果を見ても8割近い方が削減と言われているんですが、とは言っても、前回も言いましたが、現状維持と増やせという人をあわせて14パーセントの声がある中で、いきなり4名減らすことについて、14パーセントの方にどういう思いを持っておられるのかお聞きしたい。

○委員（加島広宣君） 減らす方向で話をしているので、14パーセントの声を聞いていないと言われれば、そうかも知れませんが、この数字が逆転するようであれば、そういう時期にふやしていくということも、地方議会としてはできるので今回は減らすということです。

○委員（土井基司君） 多数の考え方にもいろいろありますが、1割を超える人たちの声ですから、そこら辺は慎重に対応すべきではないかと。これ以上減らせない数、現状のやり方で最低限の数だからそこまで一気に減らすというのは、乱暴なような気がします。もう一つ、政争の具と言われましたけれども、これはどういうものを想定されていますか。

○委員（加島広宣君） 今回、定数19名ということになれば、仮に次の選挙の際に私が市長になったら、例えば議員定数を16名にしますよという声は出てくる可能性は考えられると思います。

○委員（土井基司君） 前回の市長選でそれに近いような、議員の定数を減らせという市長候補の発言もあったわけですが、本来、地方自治制度の中では、市長が議員の定数に口出しするような制度になっていないわけですから、定数が多いとか少ないとか、減らす減らさないとかではなく、地方自治制度の中で批判をしていくべきものであって、それを想定して定数を決めるというのは、少し筋違いではないかと思います。

○委員（加島広宣君） 想定して定数を決めるというのは、筋違いと感じますが、おおよーうにして、そういった発言が広がっていくような――選挙の時期になると起こってくる

ということを経験してきているので、そういったことに使われないようにしないといけないのではないかという思いもあって、それがかなりのウエイトを占めていたということではないんです。

○委員（安友正章君） 私は創生会に所属していますが、基本的には現状維持という発言をしたわけですが、その原点にあるものは、全国どこでもそうですけれども地方議会というのは二代表制という機能を認識した上で、私たちは議会として行政をチェックすると。そういった仕事をする中で、意見を集約し採決する、こういう仕事を住民を代表してやっているわけですから、あまり議員数を減らすと議会は弱体化するし、民意を正しく吸い上げることは難しいのではないかと。それと同時に府中市においても、面積と人口を考えて、民意を吸い上げるためには、空白地域の意見も私たちは吸い上げなければならない、ある意味では定数を減らして少数精鋭というよりは、多数精鋭の方が民意を吸い上げる議会ではないかと思います。そういった意味で極端な議員定数削減は、市民の声を吸い上げた政治ができるのか、こういったことをちゃんと認識しなければならない。それと、今の人口減少ということを捉えれば、ふやすことはもちろん難しい、ただ、現状を維持するか若しくは若干の調整が必要か——府中市の議会は民意を反映した議会にするという意味で19名という形については、まことに難しい決断ではありますが、そうさせていただいたと。そういう意味では16名に減らして、少数精鋭というのは、民主主義の根幹が大きく揺らぐような気がする。地方議会のあり方を考えると、今の定数は必要じゃないかと思います。

○委員（岡田隆行君） 16名という定数を、考えないといけない時期が来ることは確かだろうと思います。ただ、先ほども出させていただきましたが、竹原市の場合、平成6年には定数22名で人口が3万4,631人、平成10年には定数20名で人口が3万3,550人、平成22年から定数14名で人口が3万657人、定数が16人になったのは平成18年で人口が3万985人だったと聞いています。府中市の場合、いろんな努力があっても残念ながら毎年500人の規模で人口が減ってきています。そうすると必ずそういう時期は来るであろうと、考えなければならない時期は来るであろうということはありますが、府中市議会として維持をしていくには最低限の数は必要であろうと私は考えます。庄原市と比較すれば6分の1の面積かもしれないが、民意をしっかりとキャッチするということで、一気に4名を減らすということになれば、それでなくても地域から議員が出ていない地域はいっぱいありますから、半分以上は出ていないわけなので、そこも含めて話を聞くということになると、極端に力をそがれていくと思います。定数はいろんな観点から見ても減らさざるを得ない。しかし、一挙に4名というのは、今のデータからいってもちょっと無理があると思いますが、いかがですか。

- 委員（加島広宣君） 定数16名のときがいずれ来るであろうと、今回16名にして頑張っていけば今後10年以上は頑張っていけるのではないかという判断もあります。
- 委員（本谷宏行君） 先日も意見交換いたしましたけど、有識者の意見では、定数を減らしていくと若者が立候補しにくくなると、その際に、公明党さんからの意見を聞かせていただいていないと思います。もう一つ若者が立候補しにくくなる理由として、現職議員の方が得票に対して有利なのではないかと、もう一つは政党であるとか、支援団体であるとかがある候補者のほうが、得票数ということに関していえば、定数が減れば減るだけ当選に必要な得票数が上がってくるので、そういうことを考えると若者、新人の方が立候補しにくくなるのではないかということがあったと思います。その辺に対する思いは公明党さんとしてはどう思われていますか。
- 委員（加島広宣君） 現在定数20名で一番若い議員は加納議員で、これが16名となって若い人が出てこないとか、多いから出てくるとかというのは、全く別の話だと思っています。
- 委員（本谷宏行君） 定数と立候補とは違うとのことですが、ほとんどの有識者の方は、政党であるとか、支援団体であるとか、地域の推薦であるとかを持たない若い人は、立候補しにくくなるということが現実的にあるという意見だった。そこを踏まえて、今回の議長諮問にもある、なり手不足の解消もありますので、こういうことに逆行するのではないかという思いがあるので、その辺を詳しくお聞かせください。
- 委員（加島広宣君） 有識者の方の意見があるということですが、有識者の方は有識者の意見として聞かせていただいておりますが、有識者の方も定数の根拠が出せないということは、定数に関して、若者が出にくい傾向はあるかも知れませんが、定数が減ることに関しての若者への関連性はないと思っています。
- 委員（本谷宏行君） 今回の有識者の話ではなく、一般的に定数をどんどん減らしていくと立候補しにくくなってきているというのは現実としてあるというのが、有識者の方々の御意見なので、これが現実的にあることなんだと思います。そういう意味で、政党であるとか、地域とか団体の推薦がある方のほうが選挙では有利になるのは現実的だと思います。そこを考えて、そこまで人数を減らすほうがいいという理由というか根拠は——特に若い方が立候補しにくくなるということに対する御意見をお聞かせください。
- 委員（加島広宣君） 定数20名から16名に4名減ることによって若い人が出なくなるという思いは全くありません。
- 委員（安友正章君） 4名減ることによって若い人が出なくなるという思いは全くないということですが、都会と地方をちゃんと認識して考えないといけない。地方議員は地元から担がれた地元密着型の議員だと思う。定数を減らすということは当選するための

獲得票数が当然上がっていくわけです。そうなったときに、若者や女性が初めて政治に飛び込む際に、非常にハードルが高くなるというのが地方議員の現実であり、都会はそういう環境ではないかも知れない。当選の得票数が上がるということは、地方の若者や女性にとってはますます飛び込みにくい環境になってしまう可能性があるのです、その辺も考慮した上で議会改革をやるべきだと思います。

○委員（岡田隆行君） 定数の問題の前に、私たちは開かれた議会をどうつくっていくのかを、しっかり論議してきたつもりです。若い世代の人たちがどうやったら出てくださるかも含めて——だから、そのための具体策をしっかりとすることが、とても大事なことになる。定数がたとえ減ったからといって、必ずしも選挙になるということではない。ただ、定数が減ればそれだけハードルは高くなることは確かだろうと思います。議会に出てみようと思っても二の足を踏むだろうと私は考えますし、なり手不足解消の面からもそれはふさわしくないだろうと。定数を減らすことは非常にデリケートなものです、市民の納得は得られないのではないだろうと。減らせ減らせというから一気に減らしたよというのが、果たしてそれが本当に市民の方に責任を負う議会のあり方であるかどうかということも考える必要があると思います。

○委員（本谷宏行君） 先ほども言いましたが、周辺地域の候補者が少なくなるということもあると思いますけれども、周辺地域であるとか、いろんな形で声を拾い上げるという取り組みを、今回の議会改革でさらに取り組んでいこうと、今現在やっている議会報告会を充実させていたり、各委員会で行っている各種団体との意見交換会をさらに充実させていこうということで、そういう取り組みを充実させていくことで意見を取り入れやすくなるという議論をしたと思いますが、そういう環境ができて初めて定数削減が可能となってくるのではないかと思います。そういう環境ができていない状況で、現状で減らせるのは、会派では定数を18名という意見もあった中で、創生会としては19名という結論を出させていただいたので、議会改革にしっかり取り組んでいくということを理解していただきたいと思います。

○副議長（大本千香子君） 定数の数の議論になっているので、今19名という各会派の意見と1会派の16名が出ていますが、例えば19名としたときに市民の方にきちんと説明責任を果たせるのか、16名としたときに市民の方にきちんと説明責任を果たせるのかというのが、一番大事になってくると思うんです。19名の明確な根拠が出せるのであれば19名でいいし、16名の明確な根拠が出せるのであれば16名でいいのかなと思うんですけれども、肌感覚として市民の方から伺ってきた内容としては、19名というのは多い部類に入るのかなと思います。

○委員長（三藤毅君） 前回の意見を踏まえて、今回取りまとめていただきたいと私から

お願いした中で、次の議会は3委員会というのが一点、これから人口が減少する中で定数を減らしていくということになっていくんだろと思いますが、その時の基準を持ったかどうか。一つは人口2千人に対して1名ではどうか、もう一つは標準的な議員定数の計算式がありまして、これで計算していつてはどうかと。これが市民に伝わっていれば、人口減を見れば大体定数の目安が出てくるので——定数の根拠は今まで議論してきましたが、これといった根拠はない。どこまでいっても平行線です。だから府中市議会としてそういう目安を持ったかどうかというのを言って、19名という数字が出てきたので、この19名という数字は奇数であります。府中市議会は偶数を踏襲してきた中で、奇数でいいのかどうかも踏まえて、議論をお願いしたと思います。定数の数につきましては、いろいろお話は出尽くしたという感じはありますが、定数の偶数、奇数に対しては、会派内での協議で何かありましたか。

○委員（岡田隆行君） 奇数でいけないという意見はありませんでした。委員長が言われたように、何かの基準、スタンダードを持っておくことはとても必要だろうと思います。人口2千人に1名というのは一つの目安ではあります。そうなってくると、現在人口4万人を少し割って定数20名、3万8千人までが19名となります。市民の方に対する説明のためにスタンダードは持つべきだと思います。あわせて全国市議会議長会が出している資料で、3万人から4万人の全ての市を調べたときに、平均人口が3万4,580人で、定数が18.7人と出ています。これも絶対だとは言わないが、これも一つの目安ではあるうかと思います。

○委員（加島広宣君） 我が党が一番少ない人数を提示していますが、確かに人口ベースや面積ベースで見て平均値を見れば、そうしたデータが出るのは当然理解していますが、では、その平均値は平均であり、府中市の議員は平均で市民の方に理解してもらえるかというと、現状では、これもまた非常に難しいのかなと。アンケートを見ても厳しい意見が多いと思っています。そうした中で、頑張っている姿は、他にないくらいの頑張りが必要ではないかと思っています。

○委員長（三藤毅君） 定数を減らすことを頑張っているということでしょうか。

○委員（加島広宣君） そうということです。

○委員長（三藤毅君） 公明党さんに確認いたします。次に報酬、政務活動費について協議しなければなりませんが、定数16名にするというのは、報酬を上げるとか政務活動費を上げるということまで考えての16名という意味でしょうか。

○委員（加島広宣君） ただ単純に定数だけを考えての意見です。

○委員（加納孝彦君） アンケートの内容もありましたけれども、1,000人に配布して300人から返信があり、そのうち約100人が定数報酬を知っていると回答され、そのうちの

8割が多い少ないと回答いただいたものを、判断基準——捨てられない参考資料として議論をしているわけで、もっと積極的であれば、もう少し返却率が高かったのでは、残りの7割はどうだったのかを考えるとところではありますが、根拠という意味では、16名という数字が、これなら受け入れられるのではないかという表現しかされていなくて、19名の根拠を示せとおっしゃられています、その根拠は、各市町の資料、大学の先生が出されている計算式、今の府中市の人口など、シンポジウムでの講師の話では、減らすことについては慎重にやりなさいということもあり、これらを踏まえて18名から20名の間で議論して19名という数字を出した。16名だったらよく減らしたなと思われると言われても、実際問題15名でいいのではないかという市民は既におられるわけで、16名だったらそういった意見が全くでなくなるということは、やってみないとわからない話になってくる中で、根拠という意味では16名の根拠は何も示されていないわけで、ただ、これだったらいいんじゃないかという表現しかされていないので、16名だったらこうなるんだという説明をいただきたい。

○委員長（三藤毅君） 16名ではなくて、15名でだめなのかという明確な根拠を示されないというのが、これまでの話ではありましたが、府中市議会として基準などがあればというふうなお話で、今回のまとめということなんです。15名でなくて16名でいいというその辺はどうなんですか。

○委員（加島広宣君） 今までの減らす経緯からすると、2名ずつ減ってきているという経緯があるので、偶数的な減り方をイメージしておりました。その中で、平成24年の議会改革特別委員会では、公明党として18名を提示させていただいておりますけれども、それから2名、2名ということから4名減とさせていただきました。15名の検討はしておりません。

○委員（加納孝彦君） 現時点で16名だったら受け入れられるかなという御意見ですが、現時点でも15名でいいんだという方がおられるという中で、16名にしたからといって理解が得られるかといった根拠にはならないのではないかという参考意見です。

○委員（本谷宏行君） 先ほども19名の根拠を聞かれていましたけれども、これは前回説明したと思うんですが、標準的な議員定数の計算式など——あくまでも府中市議会としてどういう市議会にしていくかということが——ただ横並びではなく、類似団体との比較は必要ないのではないかという議論もしてきたと思います。そういう意味で19名の根拠は、1委員会で議論するのに必要な最低限の人数は、有識者の意見では7名から8名が意見が出やすく、まとめやすいと言われていています。これにこだわるのではなくて、それよりさらに減らした人数で、1委員会6名であれば十分な議論ができて、チェック機能も維持できるのではないかという根拠のもとで、現状では府中市議会の場合は3委員

会が必要であるということで、3委員会掛ける6名の18名プラス議長で19名ということが根拠であると説明させていただいた。それに対して16名の根拠をお聞きしたい。

○委員（加島広宣君） 定数の明確な根拠については、はっきりとした物差しがないので、はっきり提示することはできませんが、できるだけ市民と近い感覚でいなければならないという思いで16名を提示しているが、19名が市民に受け入れられるのかという不安が大きいんですが。その部分については、市民に受け入れられるという判断でしょうか。

○委員（本谷宏行君） お聞きしたかったのは、受け入れられるかどうかではなく、16名の根拠。委員長を除いた4名で委員会としての機能を果たせるのかという思いがあるので、4名でも回せるという根拠がないと、議会として市民に対して責任のある説明ができないんじゃないかと。19名ならできるのかということですが、19名であろうが16名であろうが、説明する内容は同じだと思うんです。確かに市民アンケートを見れば削減という意見が多い。ただ、シンポジウムに参加された方の会場アンケートでは、議会改革であるとか、今後の取り組みなどについて聞かれた参加者は、それを聞く前より聞いた後は、議員定数を減らしたほうがいいという割合が減ったり、報酬を減らしたほうがいいという割合が減ったりという事実があったと思います。そういう意味で19名であろうが16名であろうが、府中市議会としての今後の議会改革の活動を含めて、説明をしていく必要があるだろうと。もちろん、それが納得していただけるかどうかについては、わからない部分はありますが、あくまでも説明していく内容は同じだと思います。

○委員長（三藤毅君） 同じ議論が繰り返されていますので、今まで出ていない意見がありませんか。再度伺います。前回、委員長として19名でまとめたかどうかをお願いをしたところです。ただいま、御意見をいただきましたが、各会派の皆さんで19名でまとめることはできないでしょうか。

○委員（加島広宣君） 我が党としては、19名は難しいです。

○委員長（三藤毅君） ただいま、いろいろと御意見をいただきました。今回までに各会派で議論をしていただいたわけですが、結果として、ただいまのとおり意見が分かれています。意見の一致を見ませんので、本特別委員会としての結論を導き出すために、採決を取らせていただこうと思いますが、これに御異議ありませんか。

○委員（加納孝彦君） 本来であれば、本日結論を出すということはわかっておりますが、先ほどから、お互いに根拠の聞き合いになっていて、個人的には、議会改革特別委員会は全会一致が望ましいのではないかと考えていますので、できれば採決は避けたほうがいいのではないかと、個人的な思いがあります。ただ、第三者の立場で見たときに、19名とか16名とかの根拠を説明していただいた中では、市民感覚に近いほうという根拠を示されましたけど、それはどうなのかなと——全く根拠がないので。16名に対してやっ

てみないとわからないというのではなくて、16名に対してのしっかりとした根拠について、例えば、委員会で議論を重ねれば根拠が示されるということであれば、聞いてみたいという気持ちもあります。延ばして、次回も同じ主張であるならば、採決もやむを得ないのかなと思います。

○委員長（加島広宣君） 委員会において16名で可能かどうかという議論はできないでしょうか。

○委員（加納孝彦君） 19名は3委員会で各6名というのが最低限の数字ということで、委員会で十分議論できる数字として主張しているので、16名ということになれば、話を一からしなければならなくなる。2委員会の議論に入らざるを得なくなるのではないかと思います。そうすると、今の仕事量では3委員会が必要であるという話からして、議論になるかという、これ以上の進展は望めないのかなと。

○委員長（三藤毅君） はなしを戻します。採決をとることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（三藤毅君） 御異議なしと認めます。

それでは、採決を行います。

議員定数については、次期改選期から1名減の19名とすることに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○委員長（三藤毅君） 起立多数であります。

よって、議員定数については、次期改選期から1名減の19名とすることに決しました。

~~~~~

○委員長（三藤毅君） ここまでで何か御質問がありませんか。

○委員長（土井基司君） 先ほどの採決の確認ですが、議会改革委員会としては、次回から19名とすることを答申するということですか。

○委員長（三藤毅君） そういうことです。

○委員長（岡田隆行君） 毎回このような論議になるので、皆さんが納得できるような基準を今から考えていく必要があると思います。こうではないか、ああではないかという水掛け論的で定数が決まっていくことは、市民の方にとって、とても納得がいかないところだと思うので、いろいろ研究をしながら検討していく必要があると思います。

○委員長（三藤毅君） そのほかに何かありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（三藤毅君） 事務局から何かありませんか。

○事務局長（赤利充彦君） 特にありません。

~~~~~

○委員長（三藤毅君） それでは、次回の日程について協議いたします。

〔意見交換〕

○委員長（三藤毅君） それでは、今回は8月29日（木）13時から行います。内容につきましては、報酬、政務活動費について議論を進めたいと思います。報酬、政務活動費につきましては、第6回特別委員会において、議会基本条例第25条及び第11条の規定により論点を整理して、検討すべきであるとの協議が行われていますので、それに基づいて各会派で意見を集約し、根拠とあわせて説明していただきますようお願いいたします。

以上で議会改革特別委員会を散会いたします。

午後2時17分 散会

府中市議会委員会条例第29条第1項の規定により、ここに押印する。

令和元年8月21日

府中市議会改革特別委員会

委員長 三 藤 毅